

おし源氏物語の流源氏乃其の物語を
あつて故に別号を以て此平公以て
と桐養を名せし七歳に於て其の父を
ありて其の同し行する系行の音也又
雲井氏ひじりあふ何事も今なくあり其
とる高舞より博士にりて其の桐
糸すいはは博士の君の光るやいふるに
おしと故にあつて光君と名づるなり

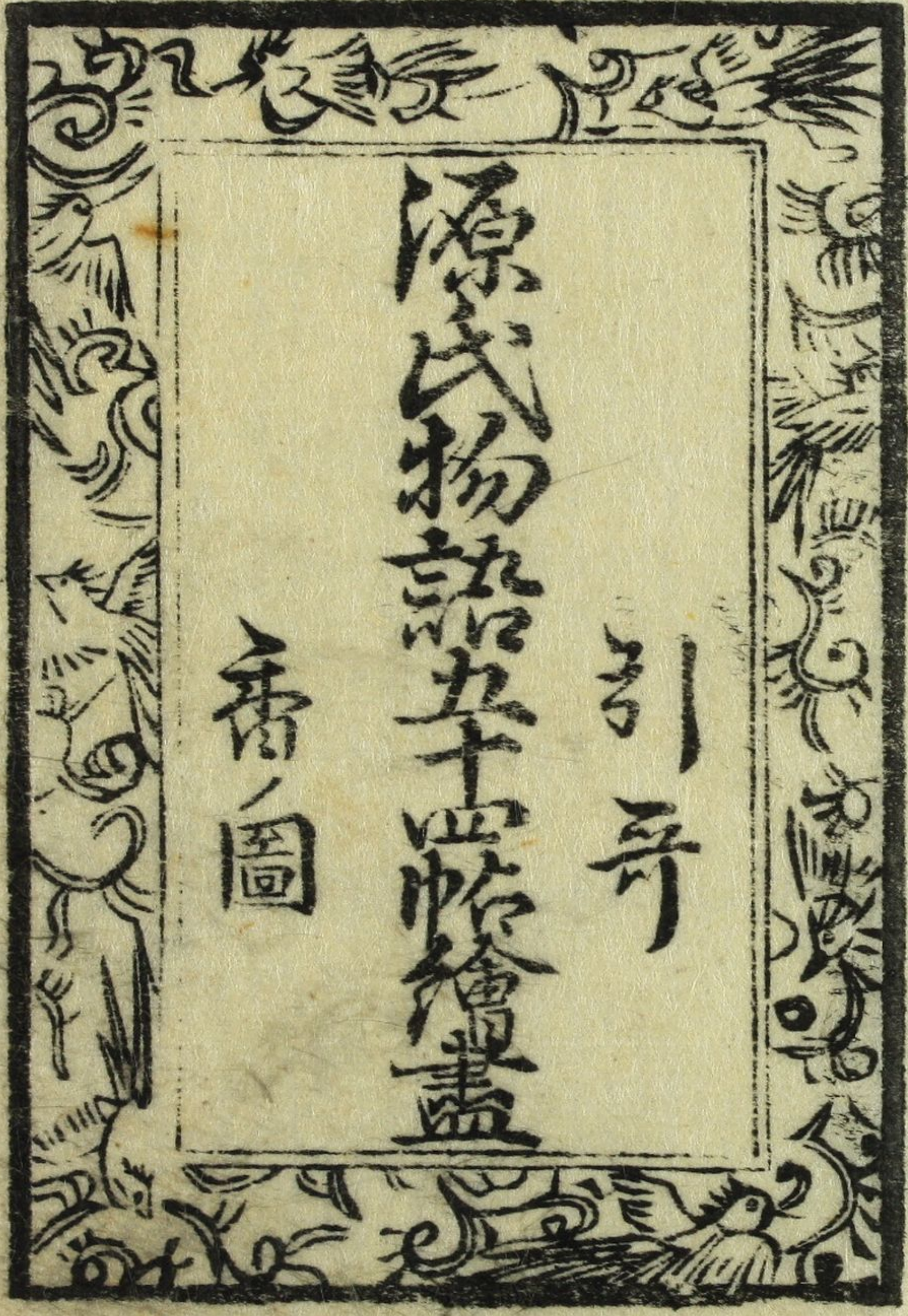
かくか来しと源氏といふるの何梅抄の
源氏の源氏物語の信公源氏の姓と給
より好むと物と一万物乃義ありと和名理
てこふ演説と信といふ也此別号の重
や身は其の周易の乾之吉利貞乃又は信
乃其の仁義礼智信の五常不ふと人
者起の信院の信乃又上東門院の信
さしや侍と尋と出るへ信女の信武

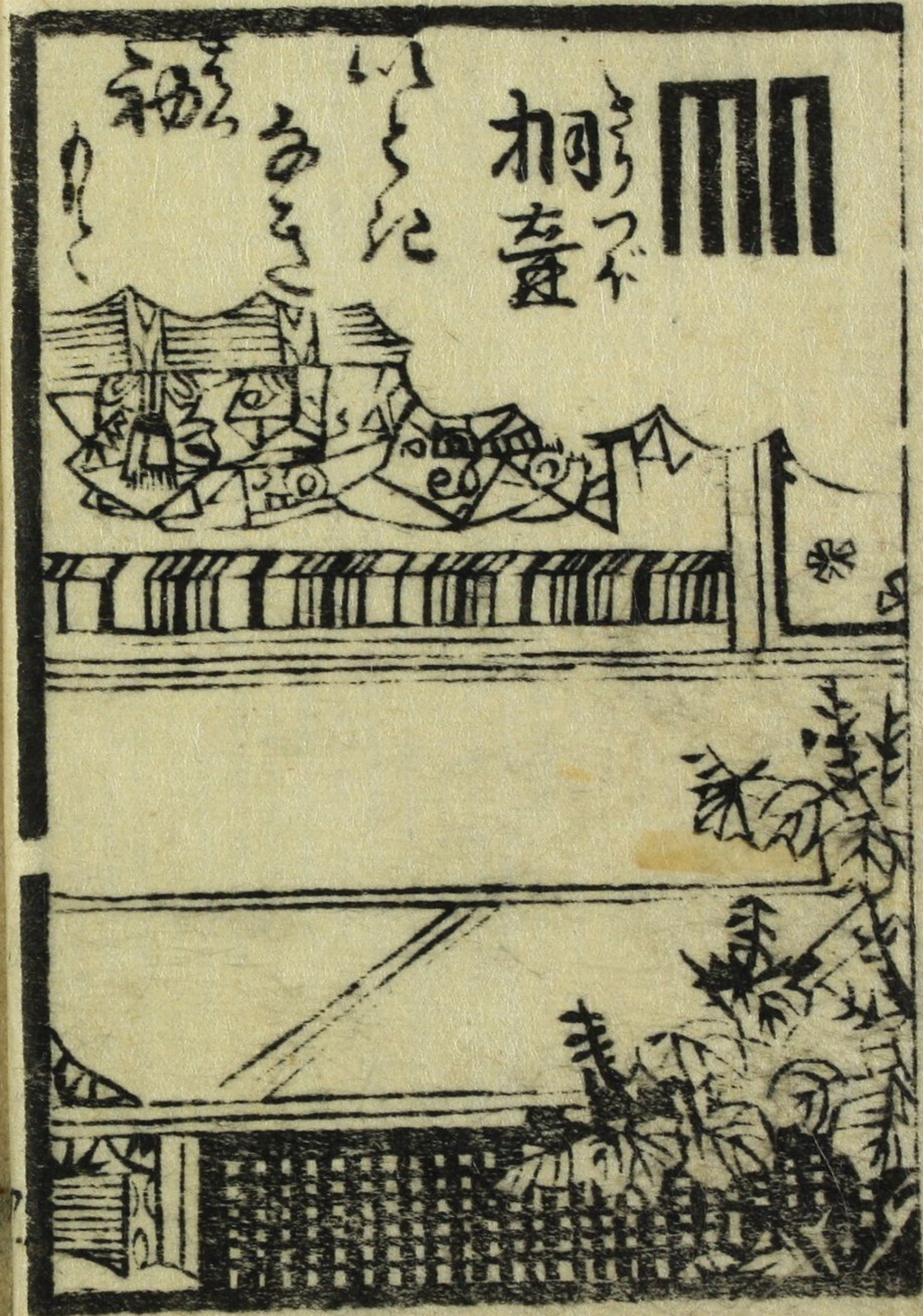
信じて書くはむらさき式に
 ありてはと瓜観世喜み彩
 八月の夜に月御あふりて
 まるは先流二日石の心
 をよらうとてまはれ巻
 るりとあがしむるま
 の化身あらうとらひて

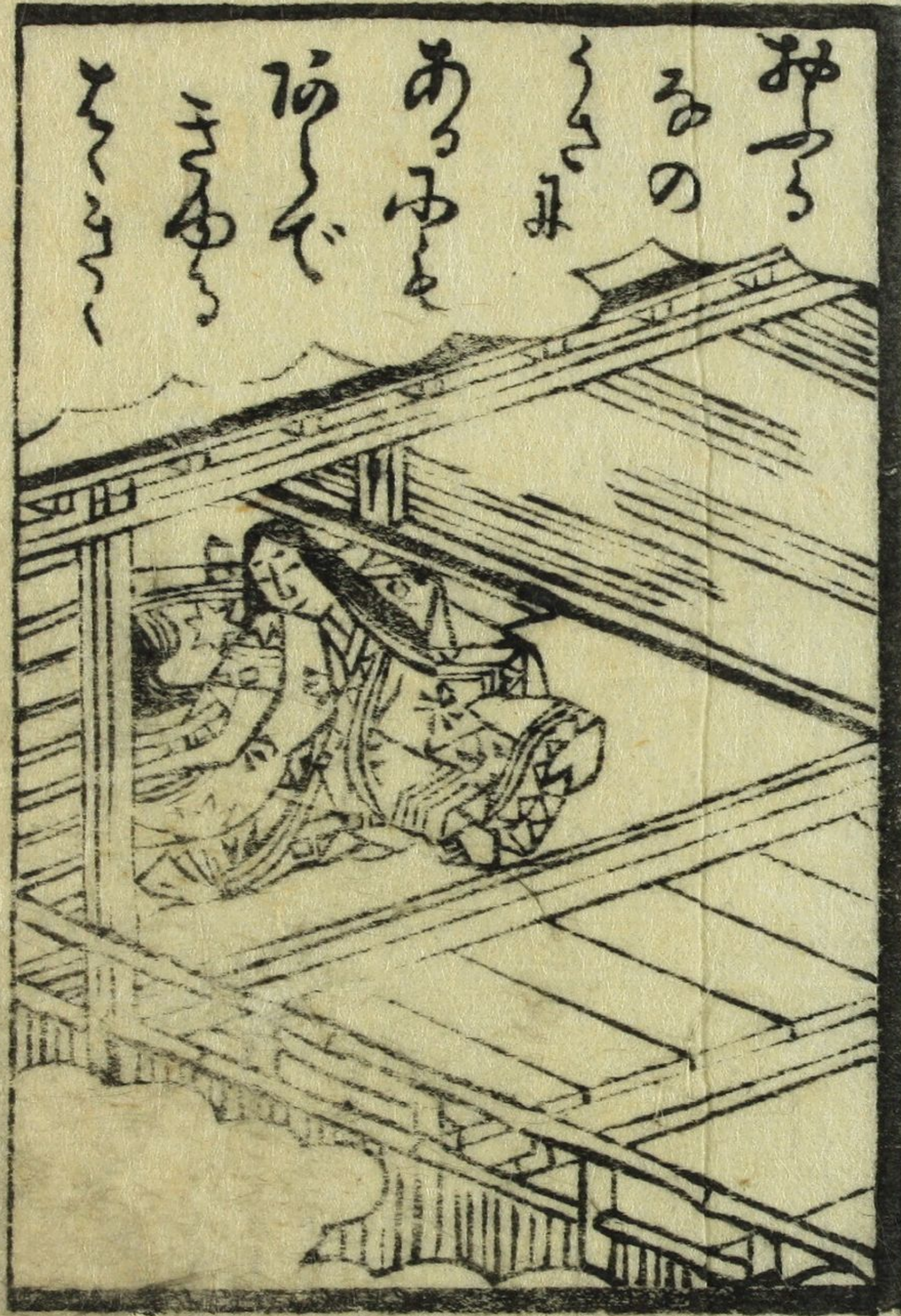
引号

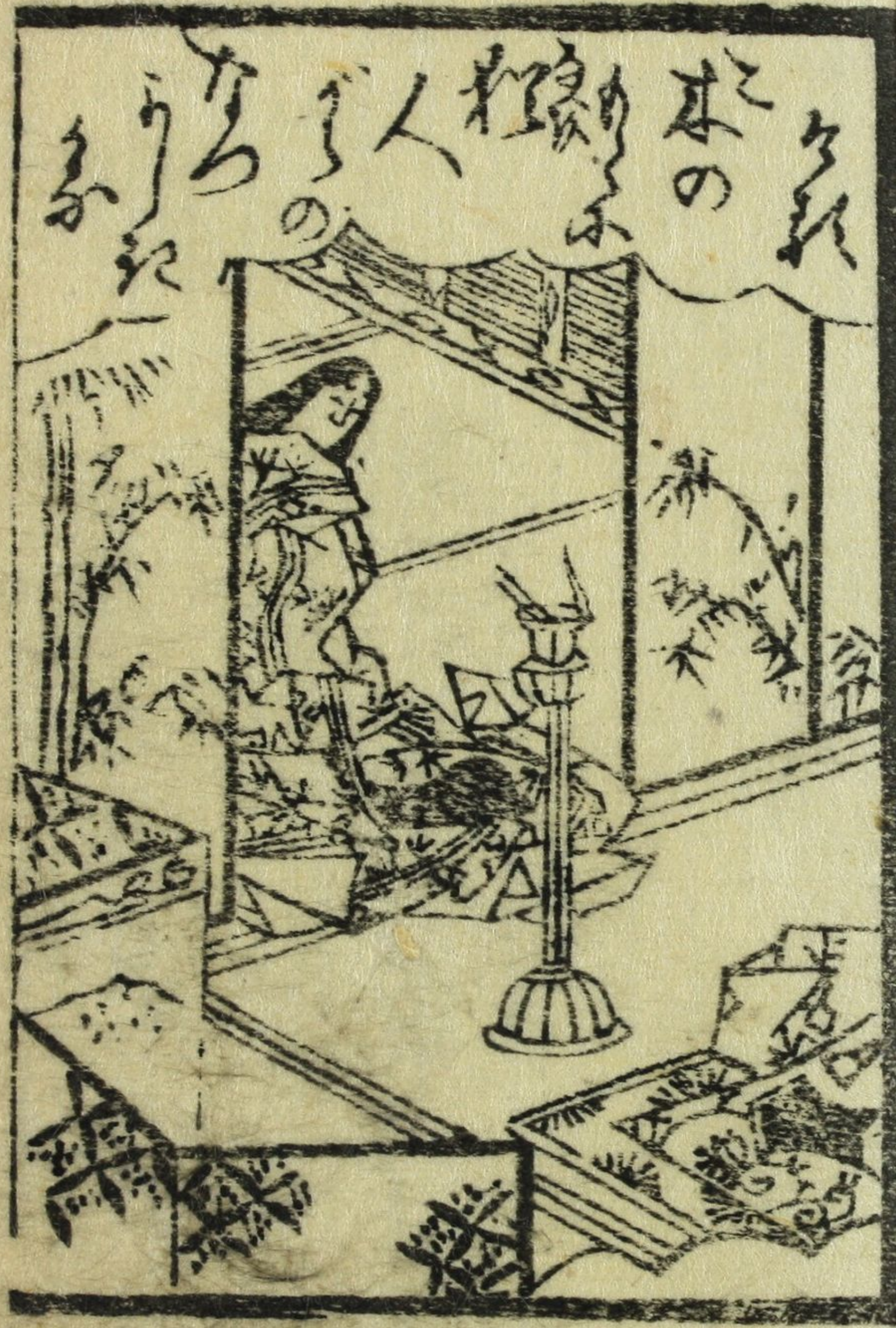
源氏物語五十四帖繪盡

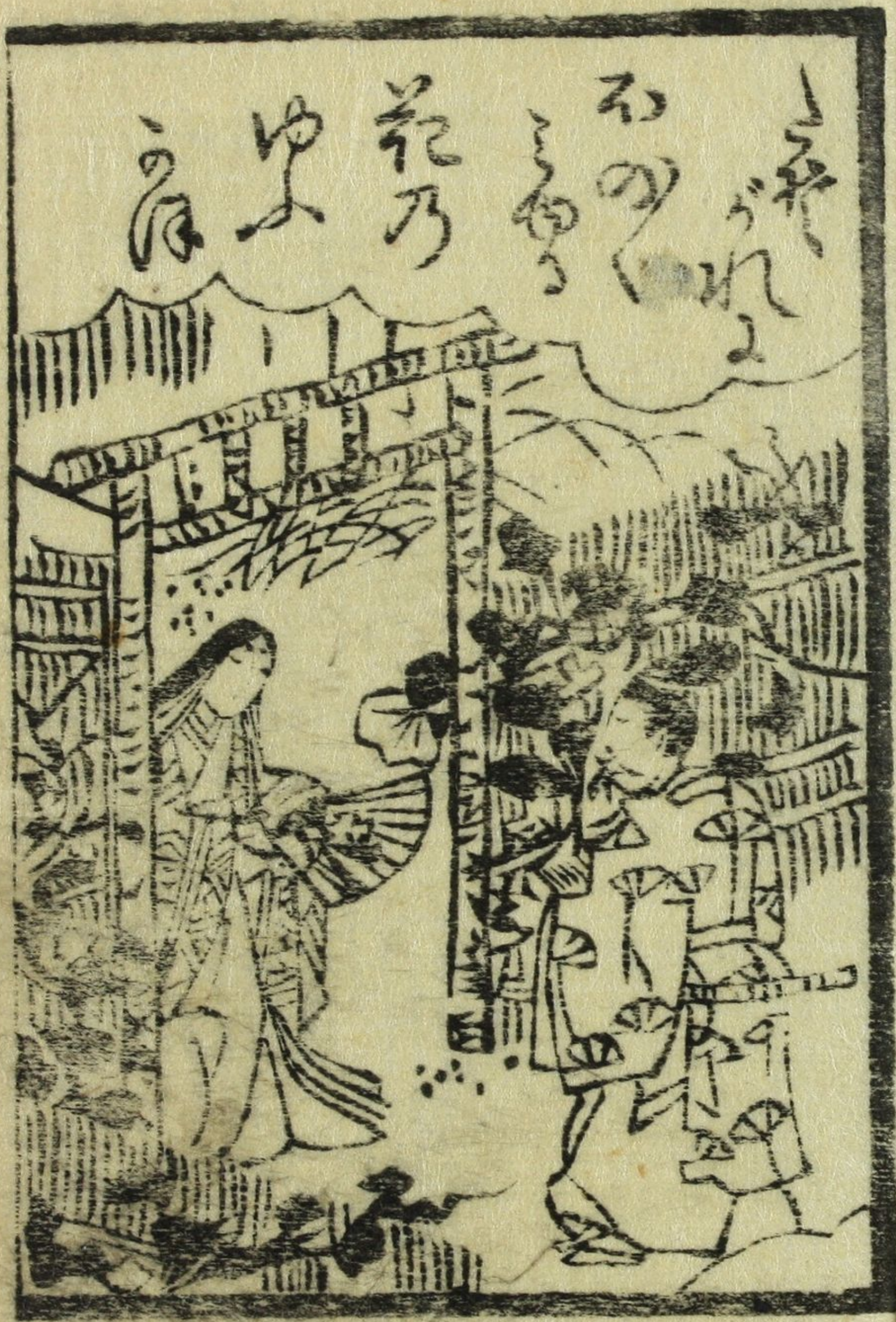
番圖







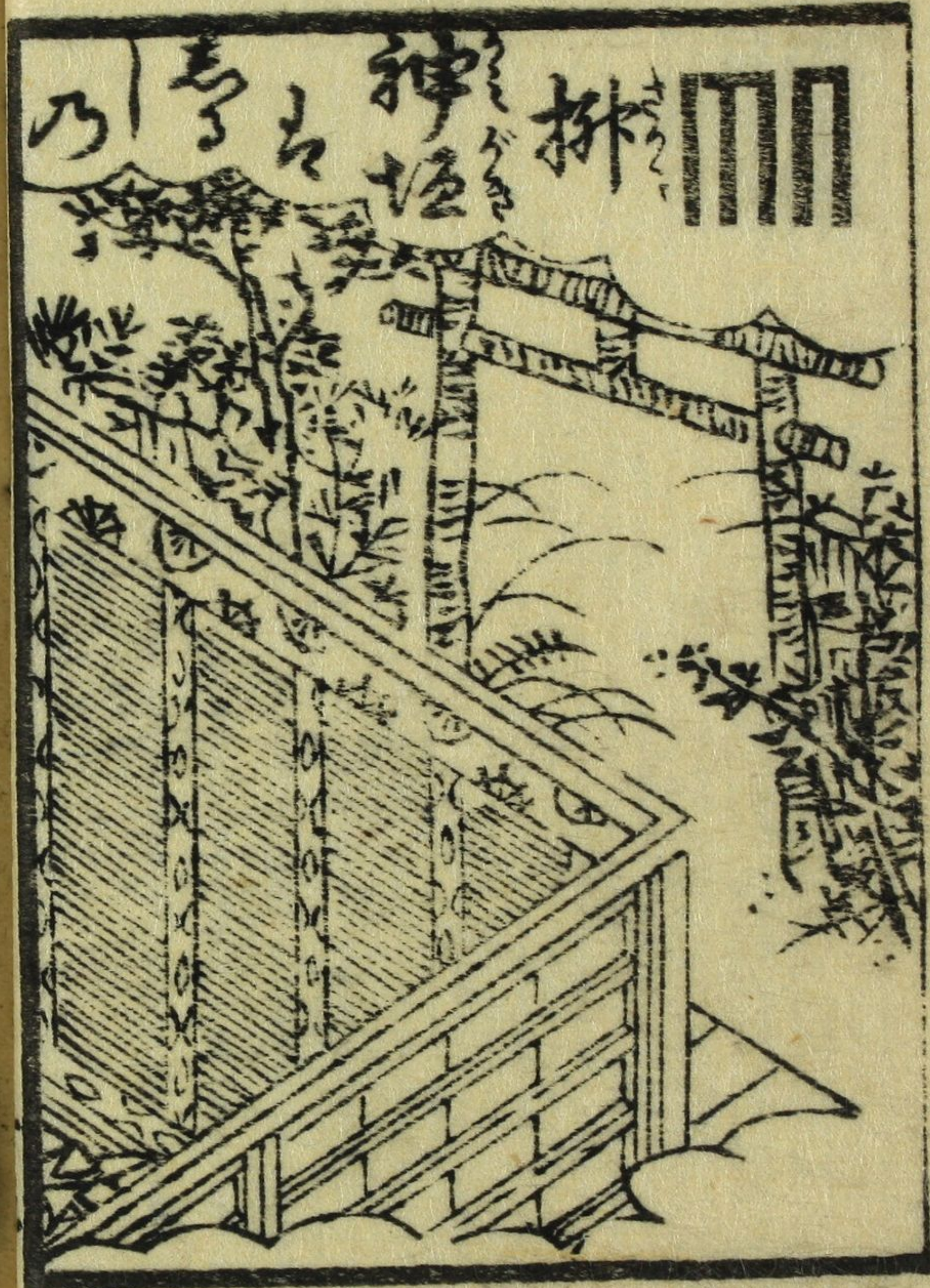
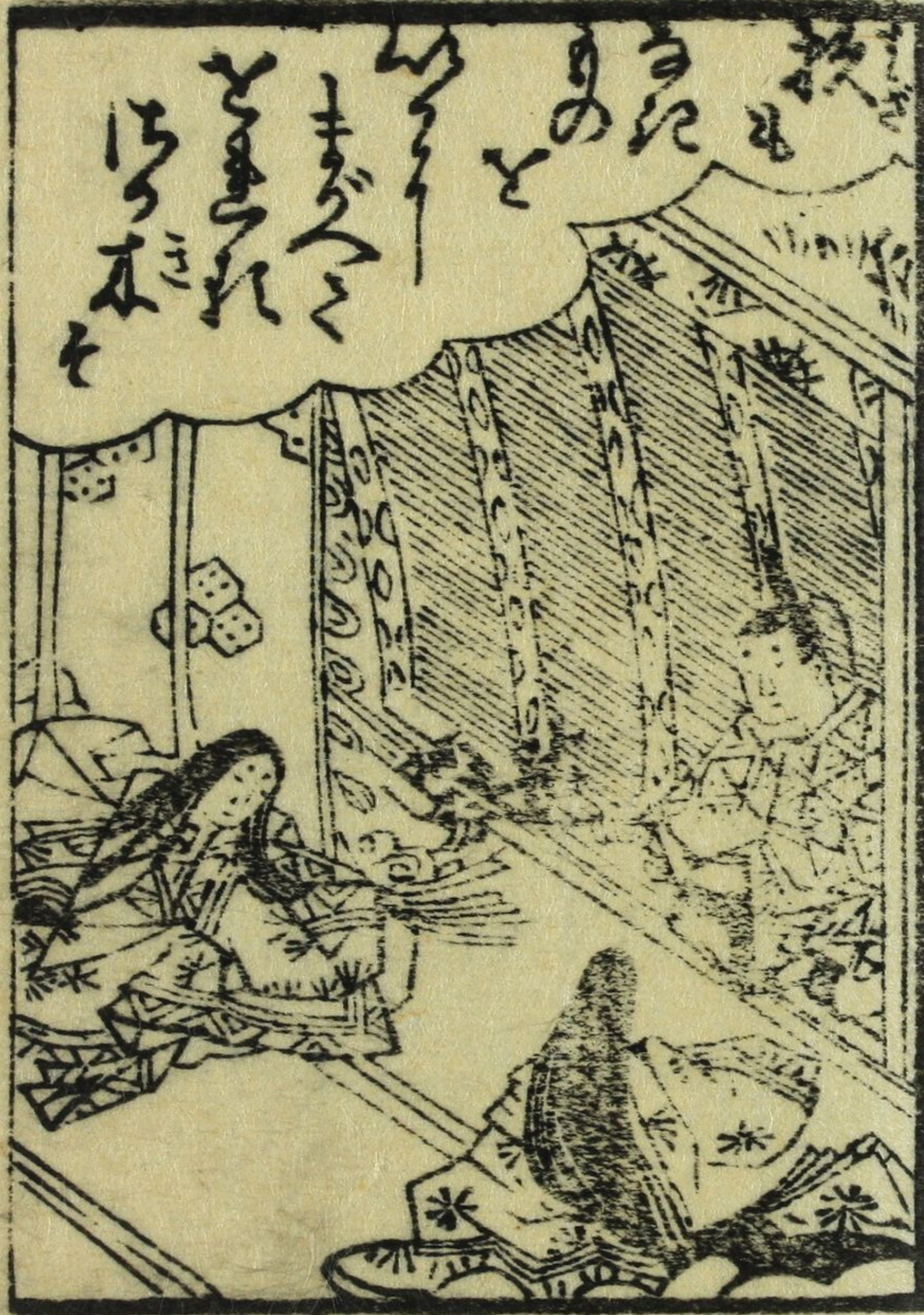


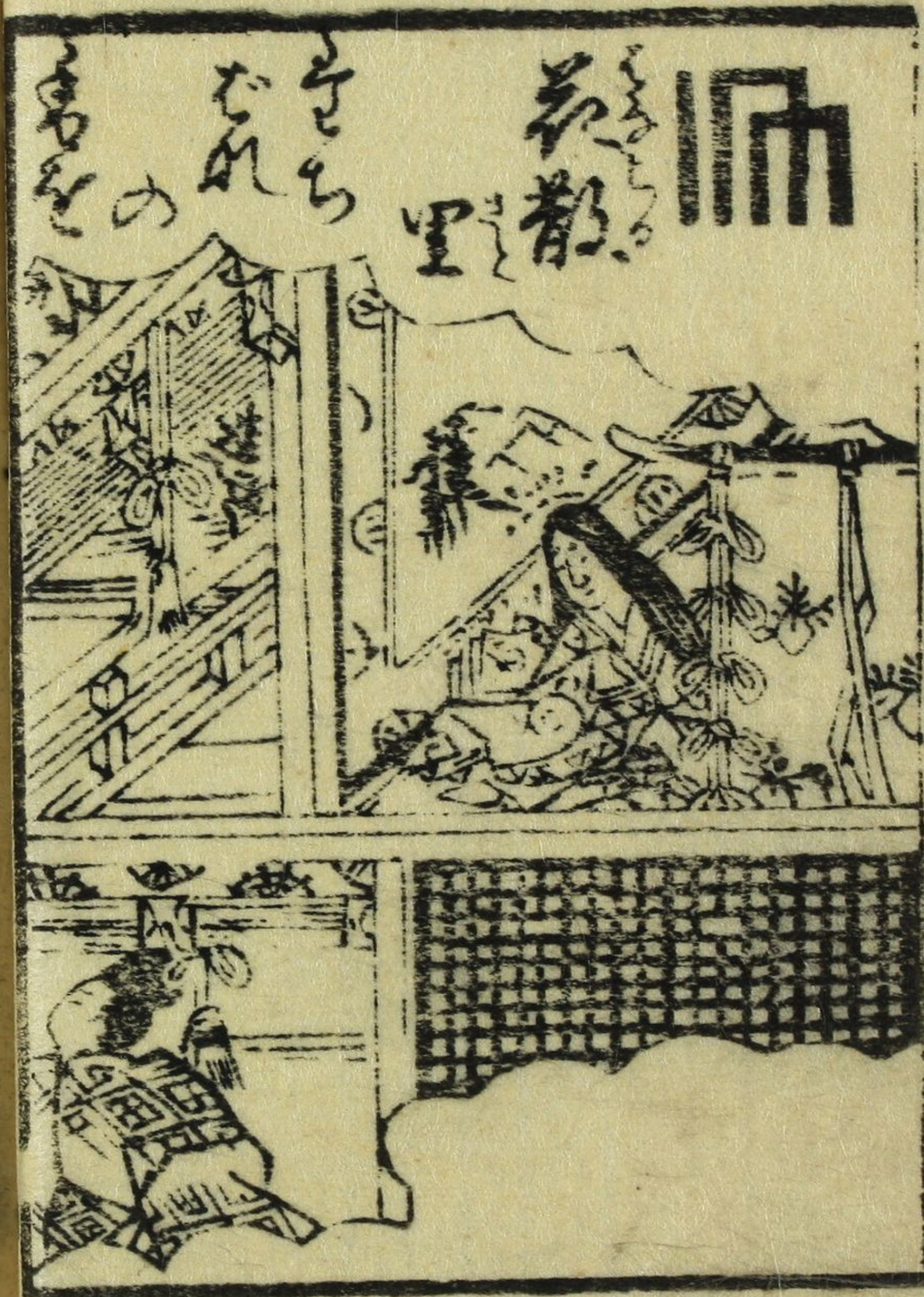
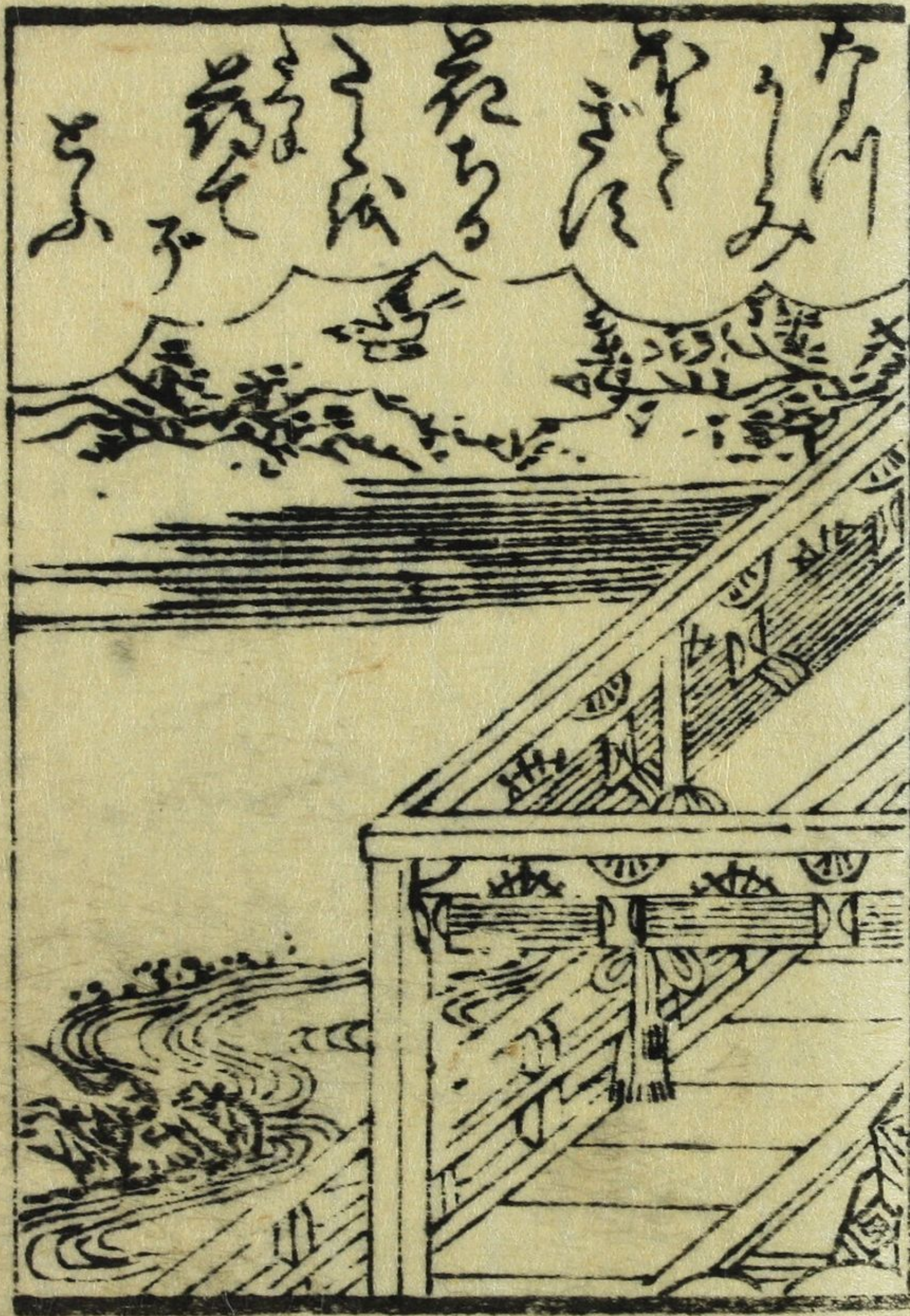




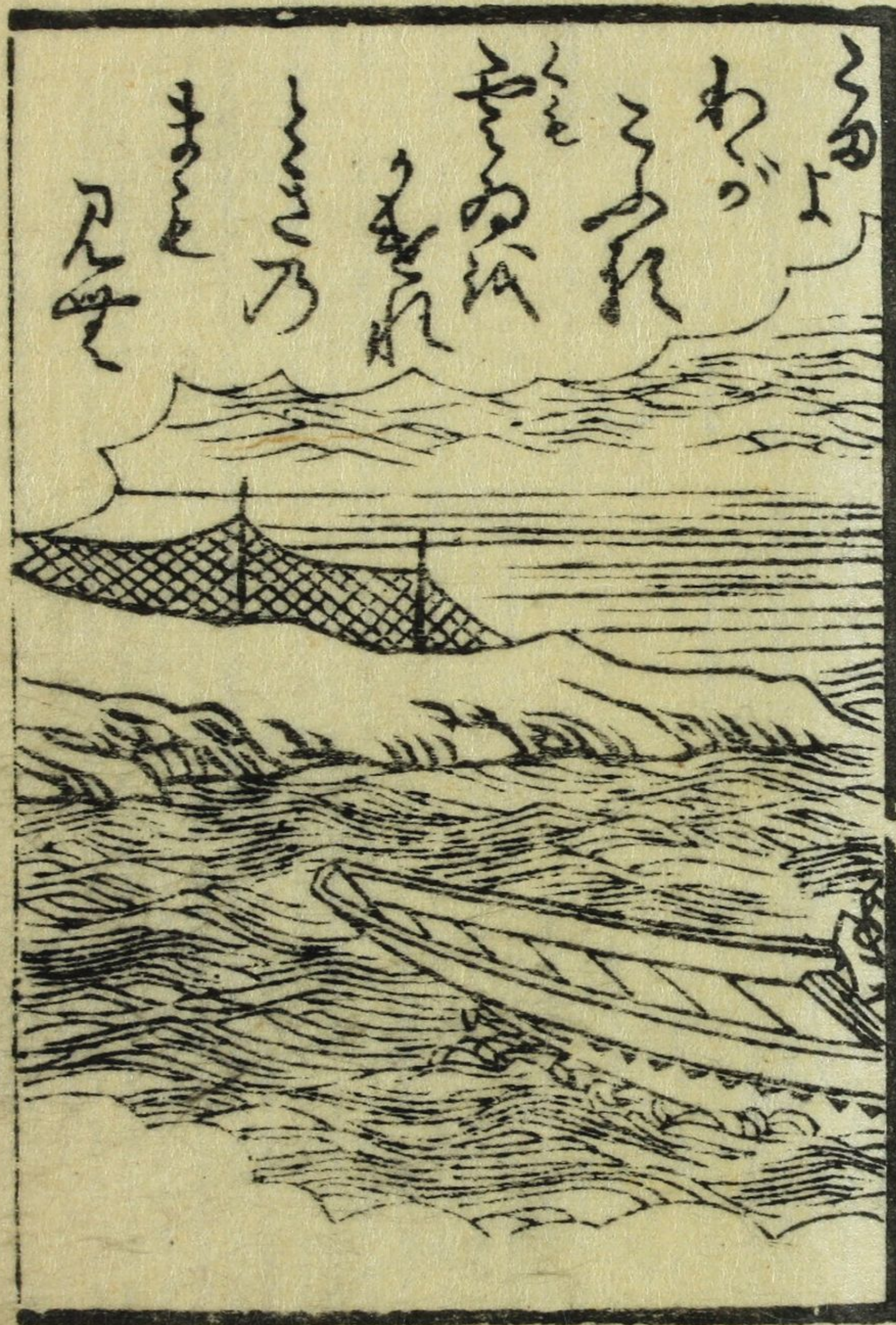














あまの
うゑひ
あはれ
なみ
うゑ
あまの
うゑひ



あまの
うゑひ
あはれ
なみ
うゑ
あまの
うゑひ

標









笑
ま
う
不
子



松
風
身
心
物
心
心
心



うすく
 為雲

いかん
 いかん

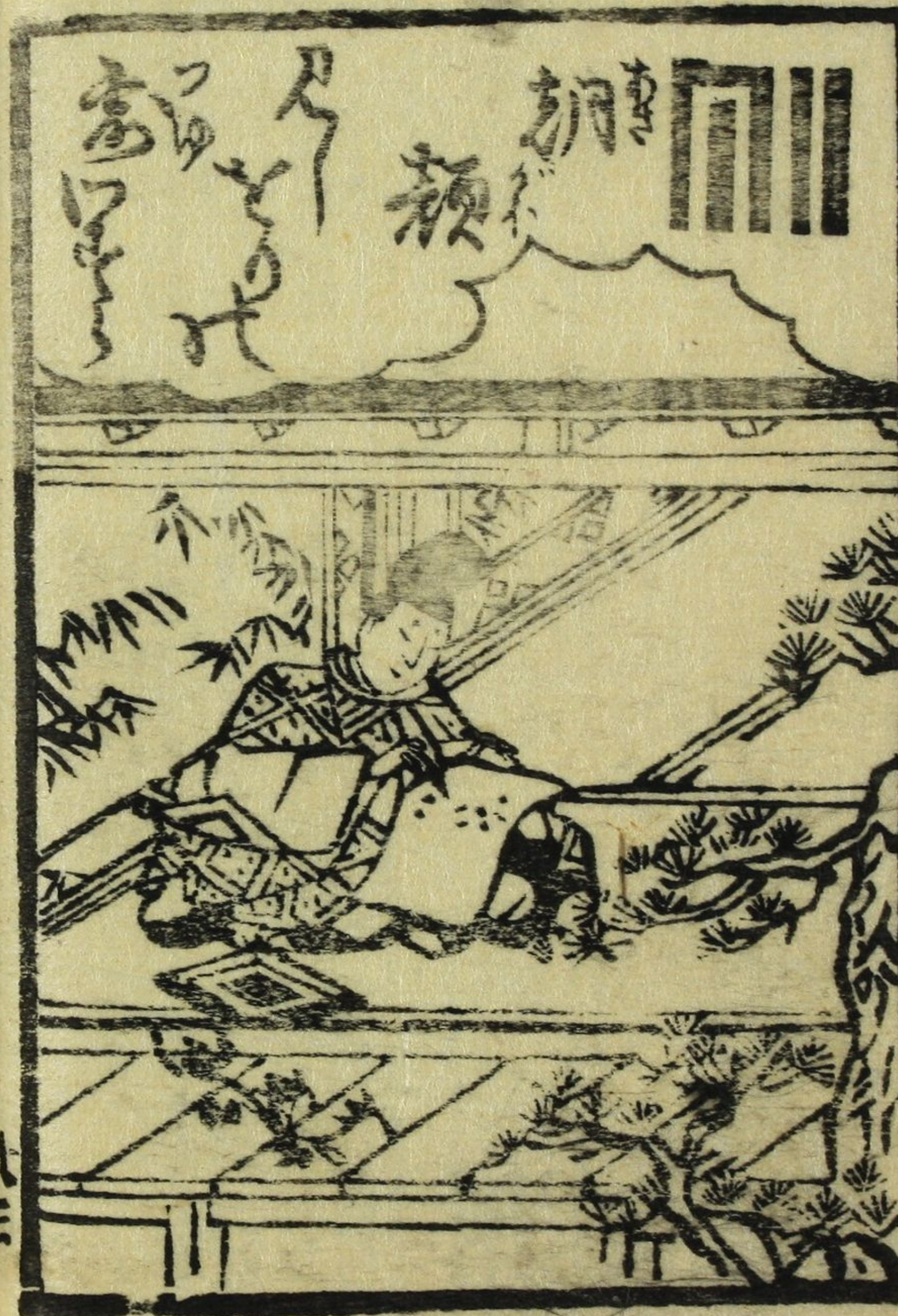
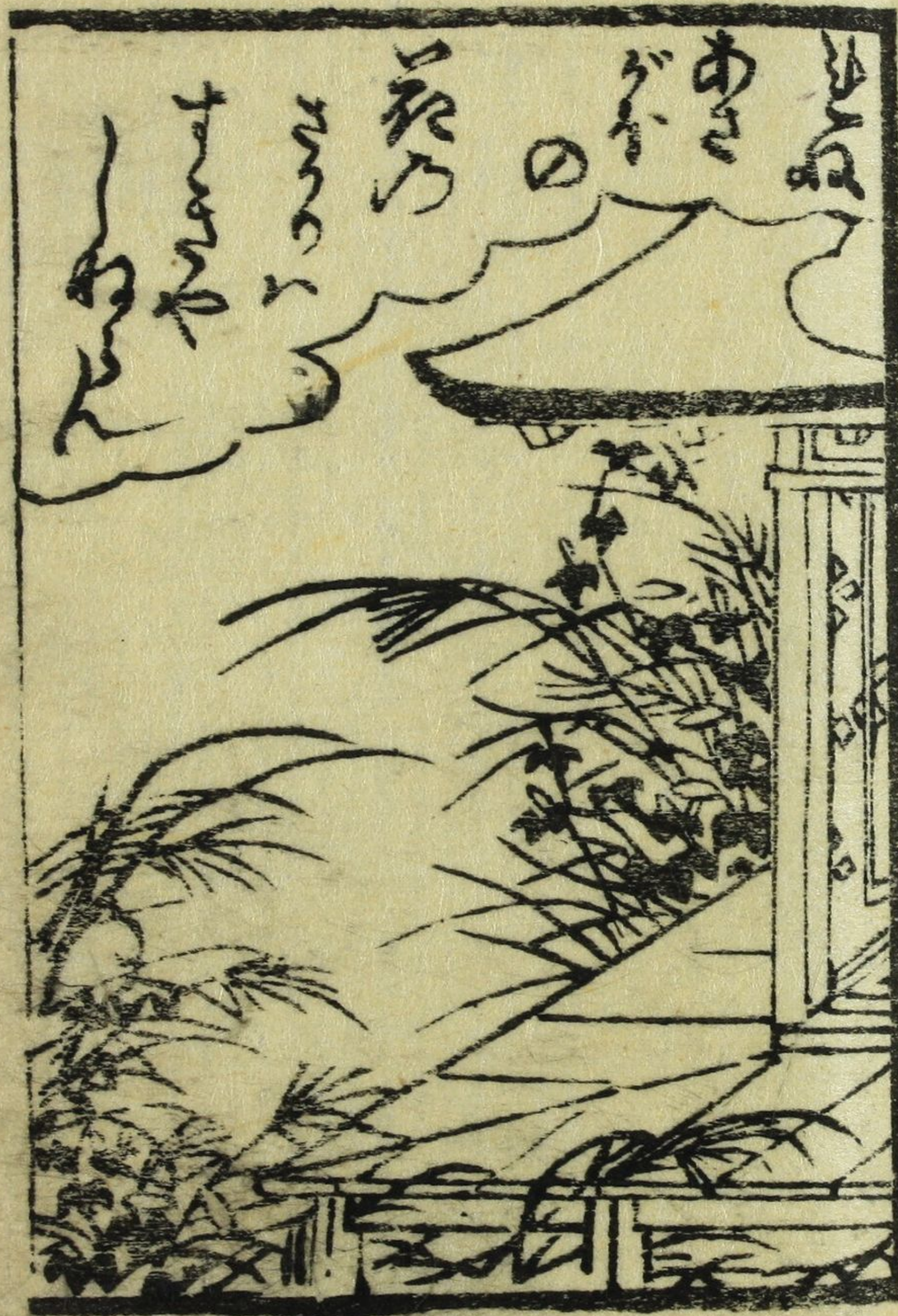
福
 福

福
 福

福
 福

福
 福

福
 福

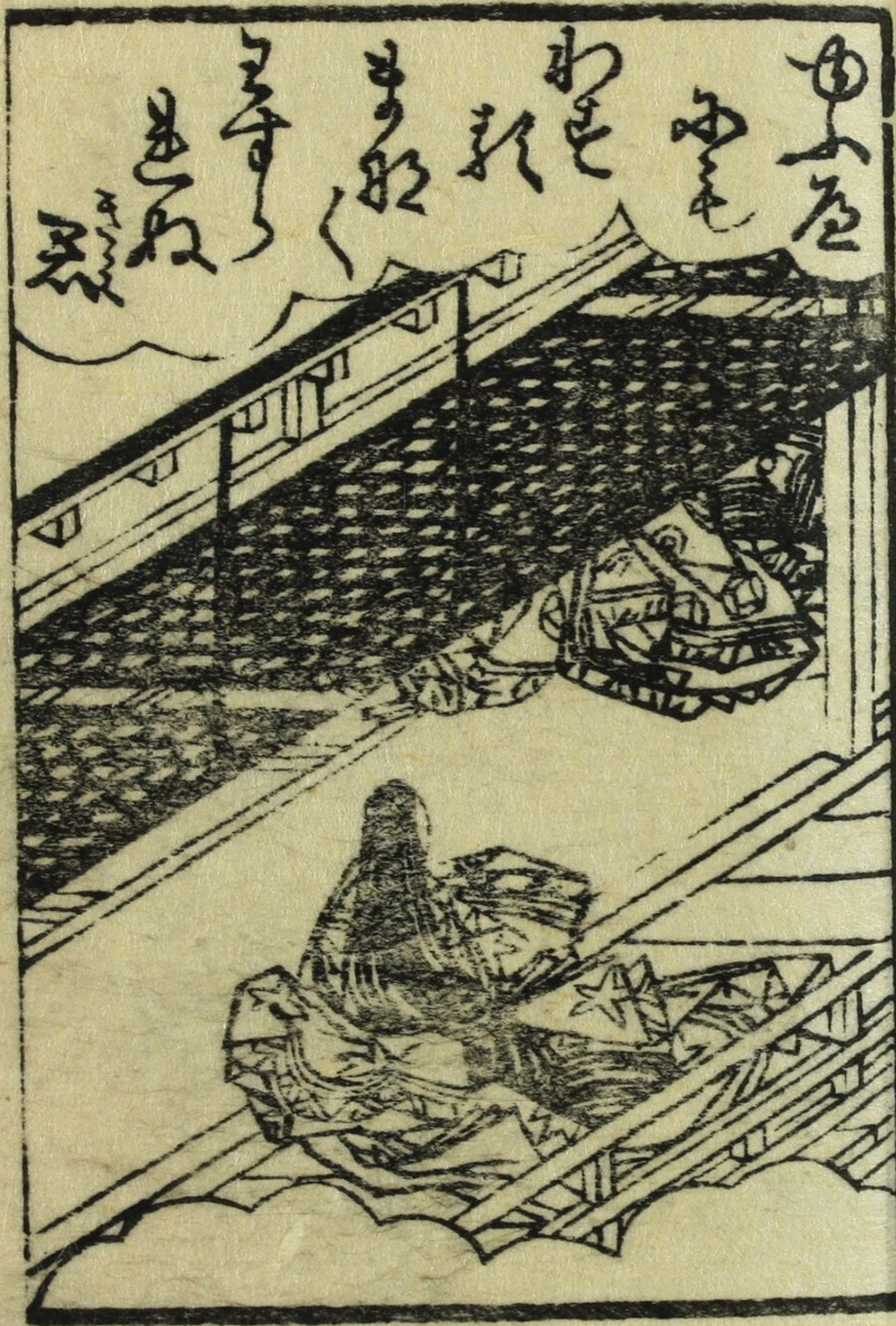




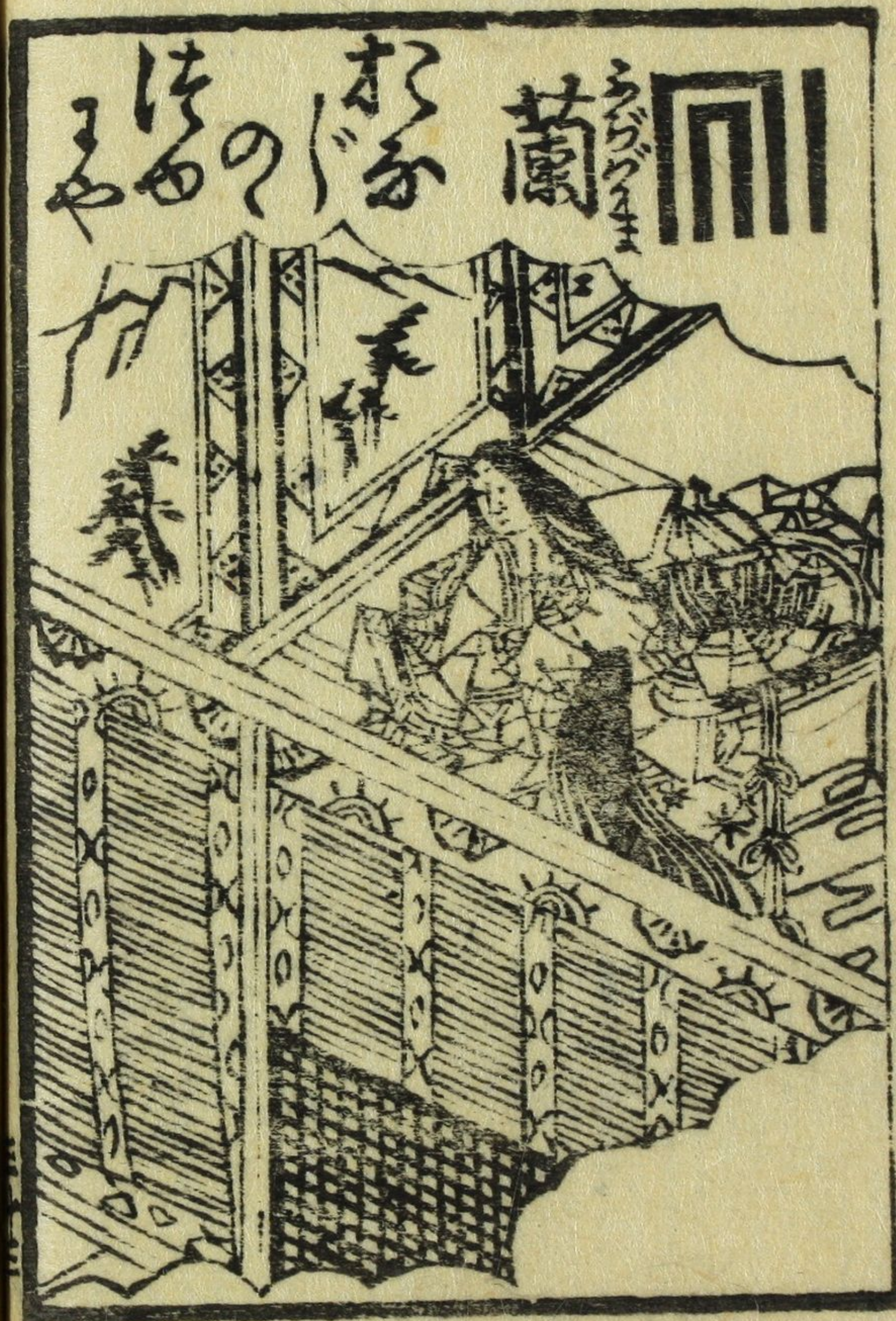
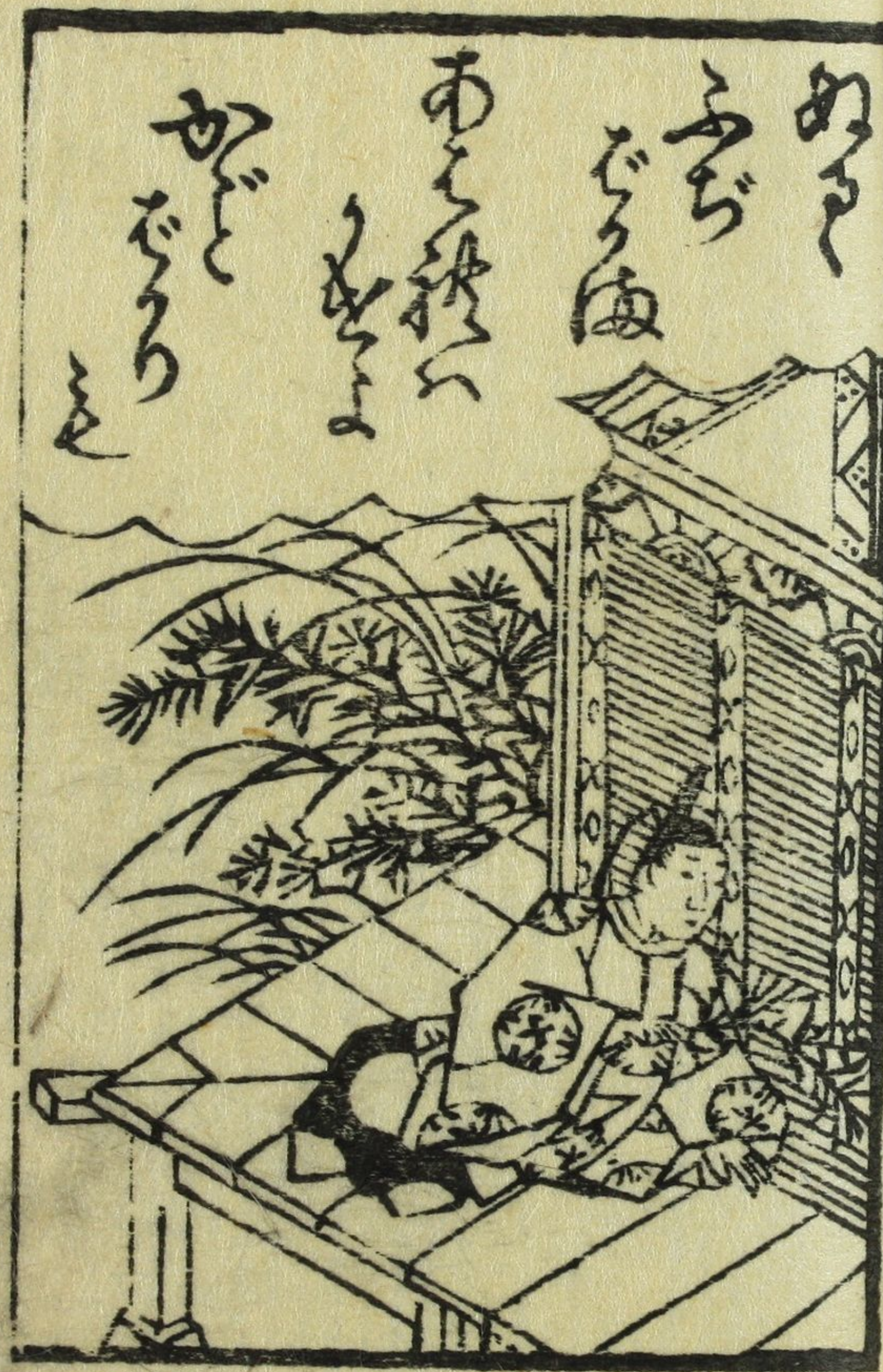






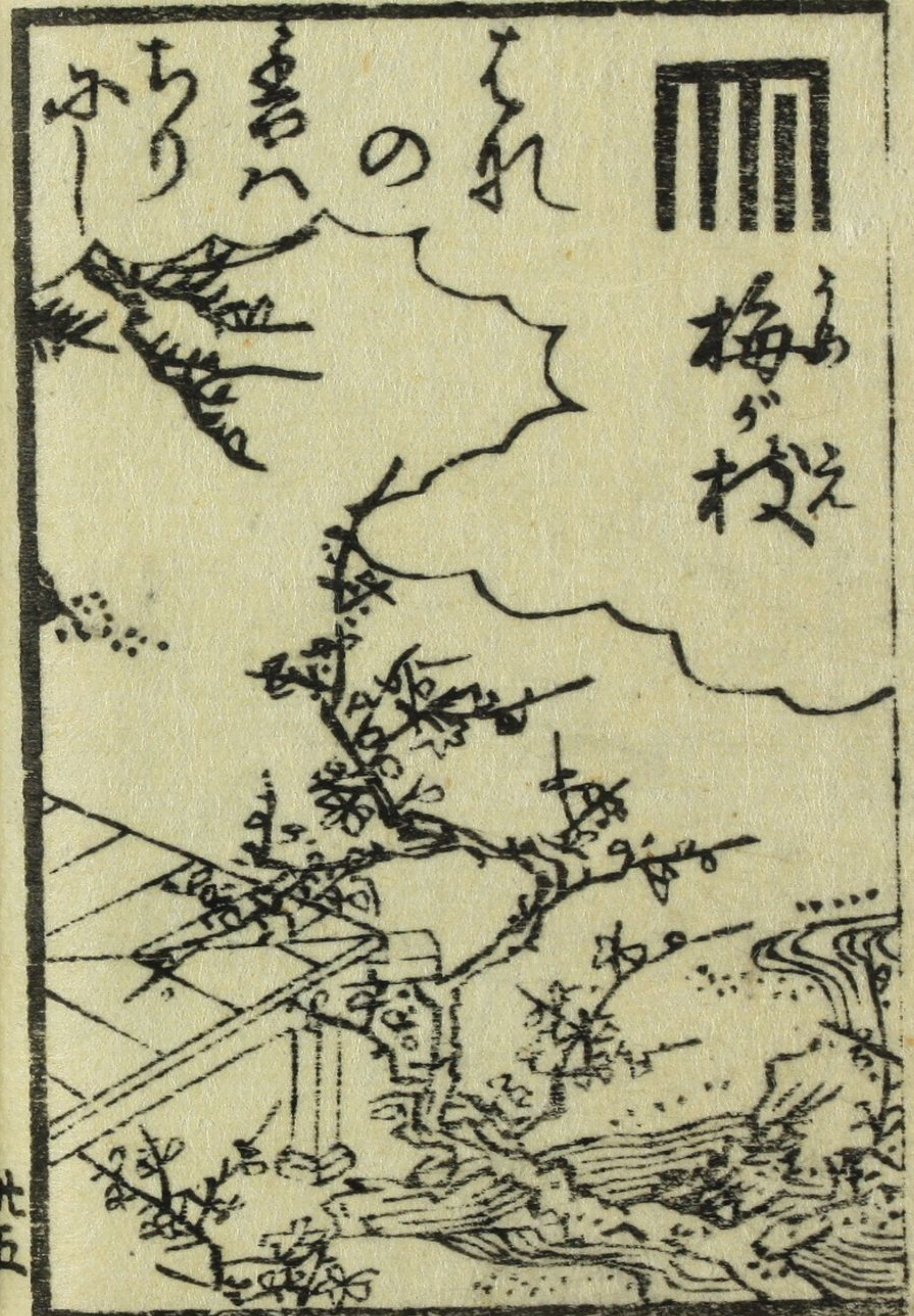








梅うめのの枝えは
 福ふくををもたらたらす
 神かみのの御み守まもり
 守まもりや

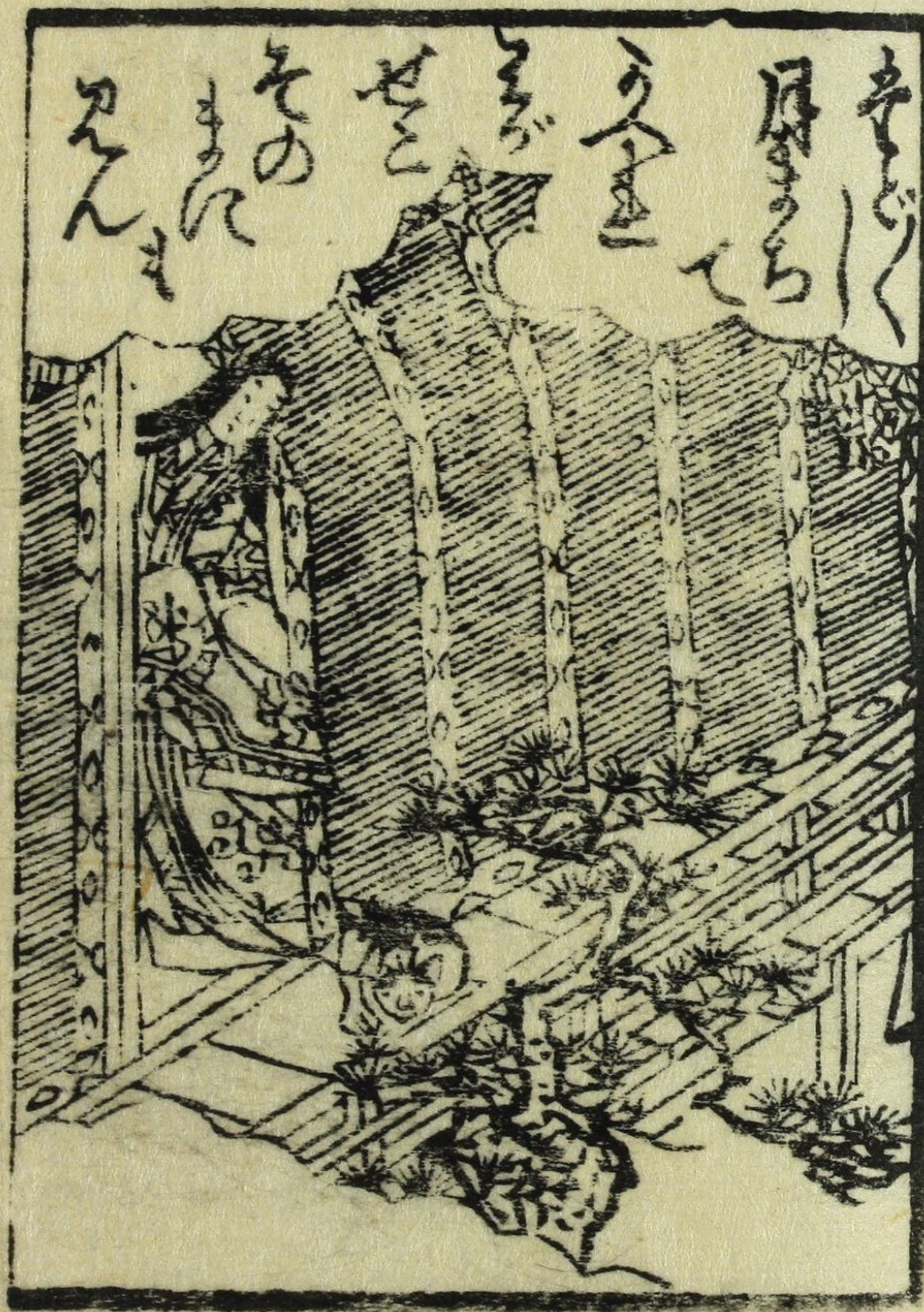


梅うめがが枝え

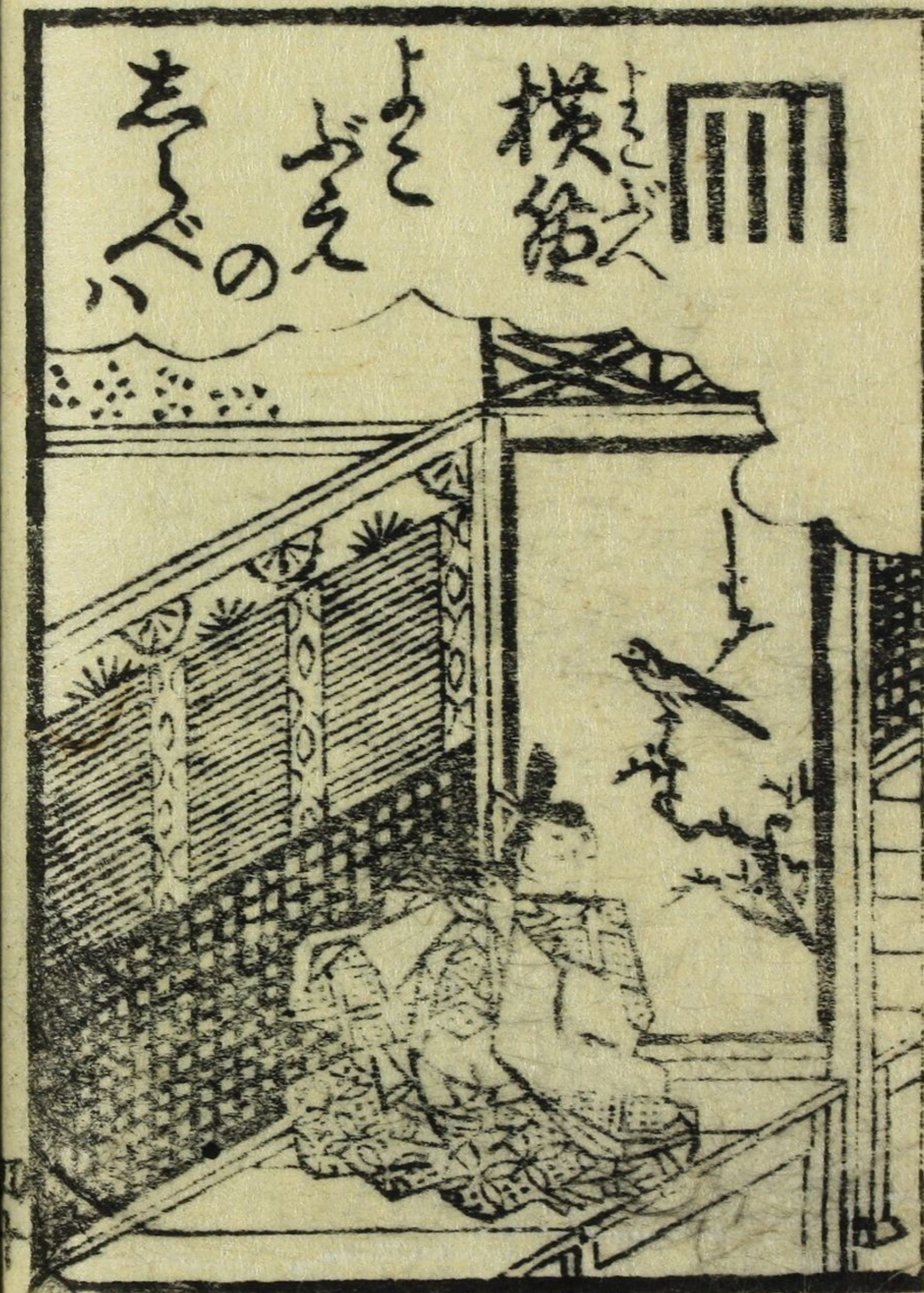
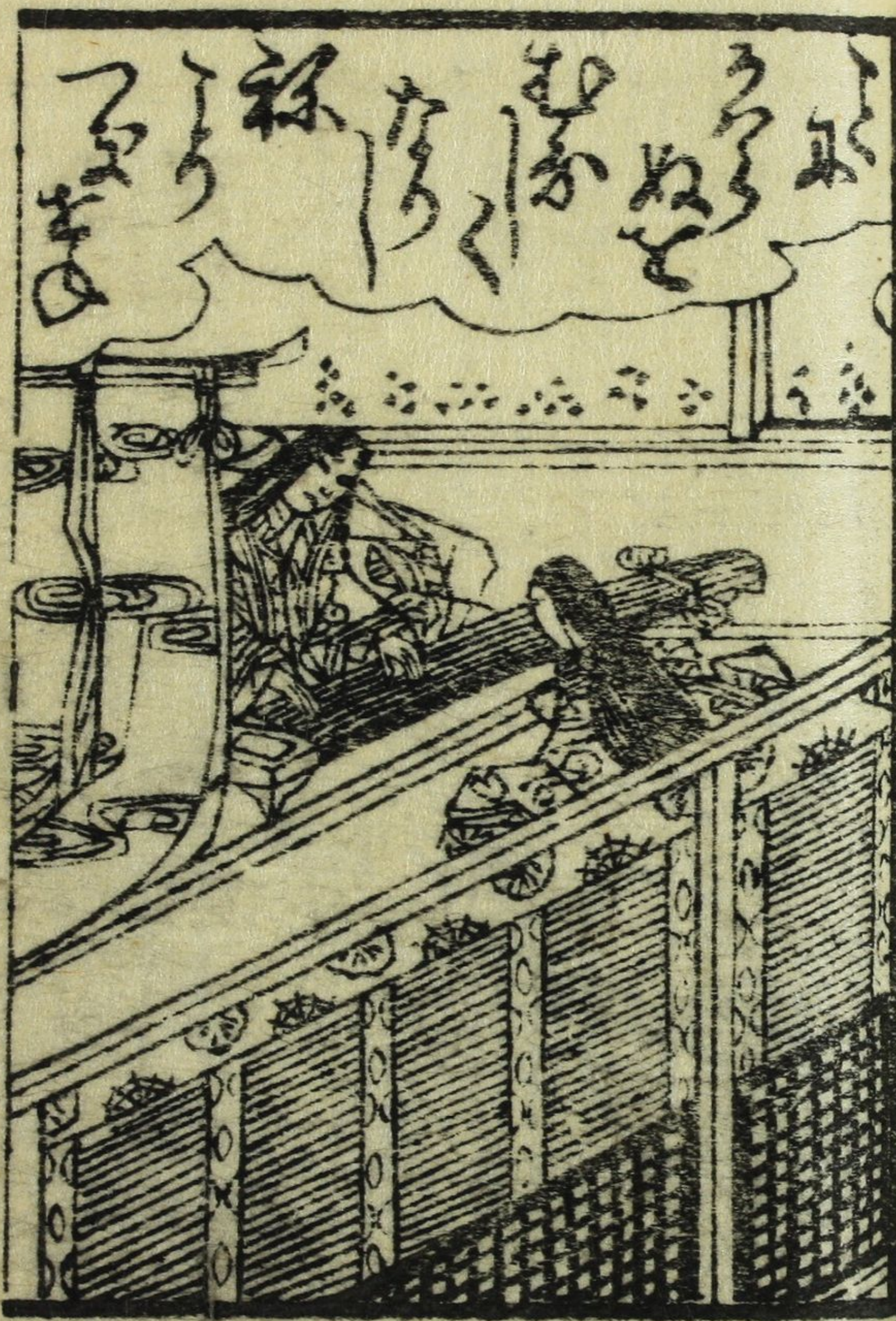
ちちのの枝えは
 福ふくををもたらたらす

梅うめ



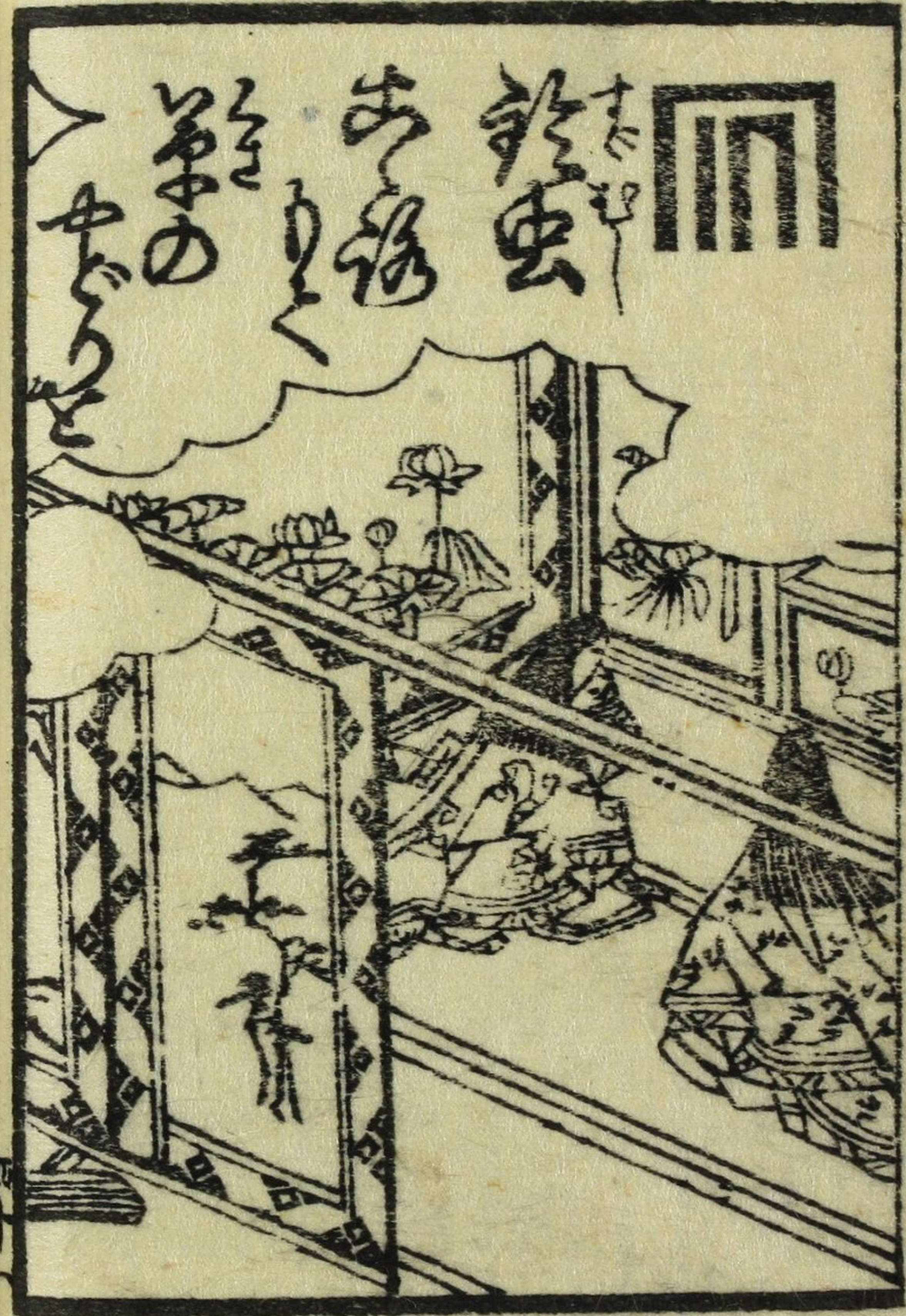






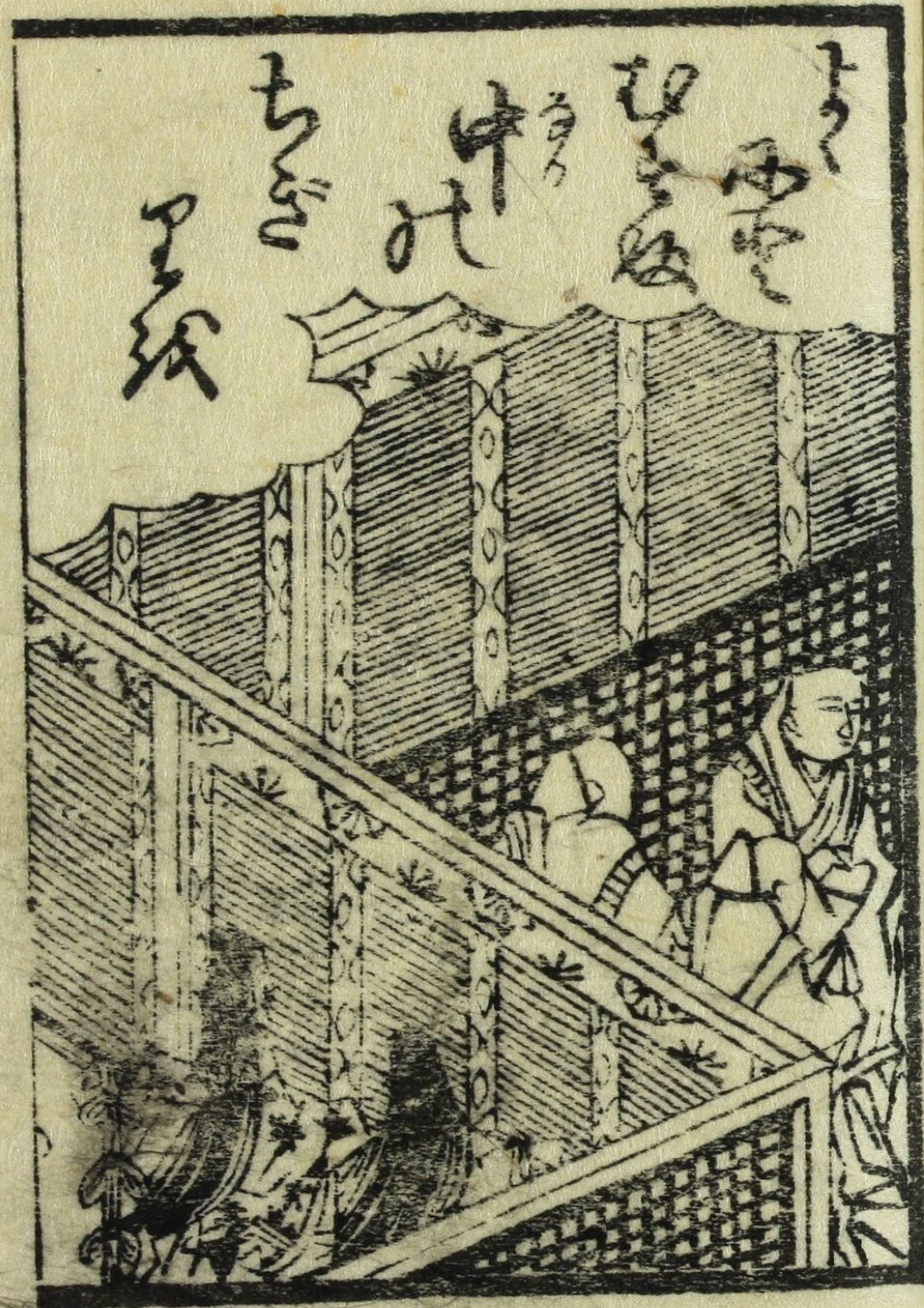


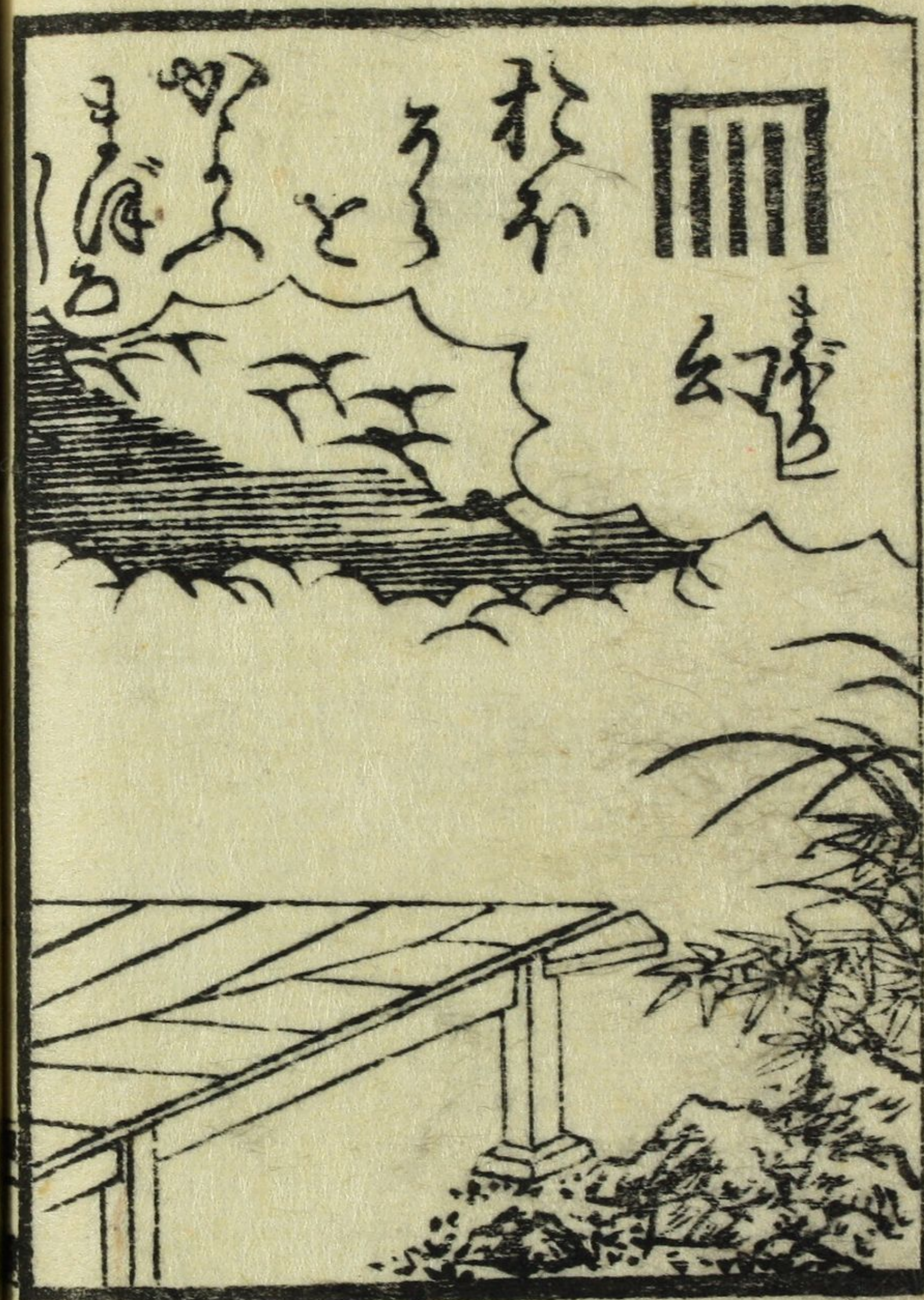
夕
 月
 照
 山
 影
 落
 池
 中
 花
 影
 乱
 舞
 風
 吹
 竹
 葉
 响
 空
 中
 雁
 字
 横
 秋
 意
 正
 濃
 也



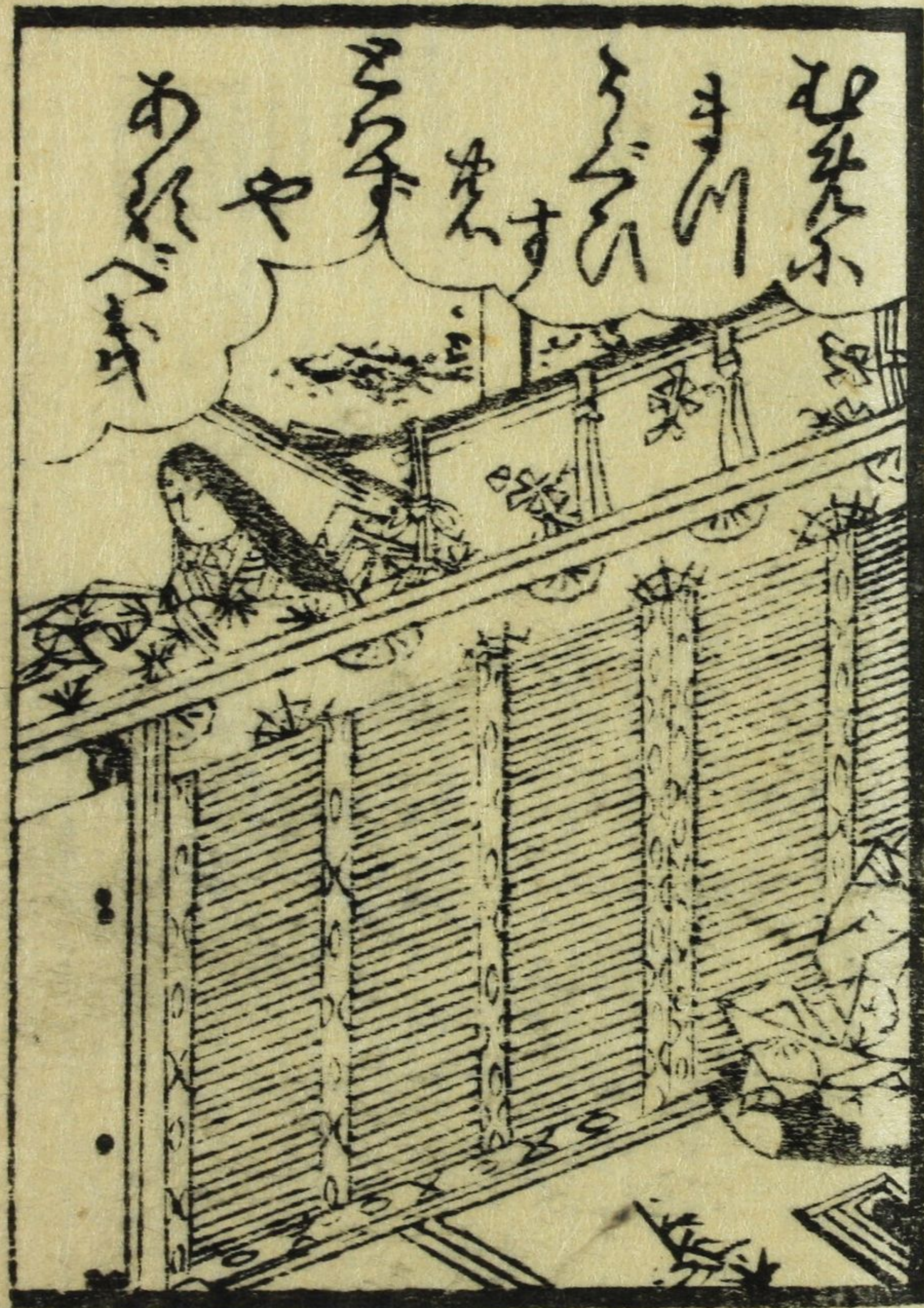
月
 夜
 虫
 鳴
 聲
 響
 空
 中
 雁
 字
 横
 秋
 意
 正
 濃
 也



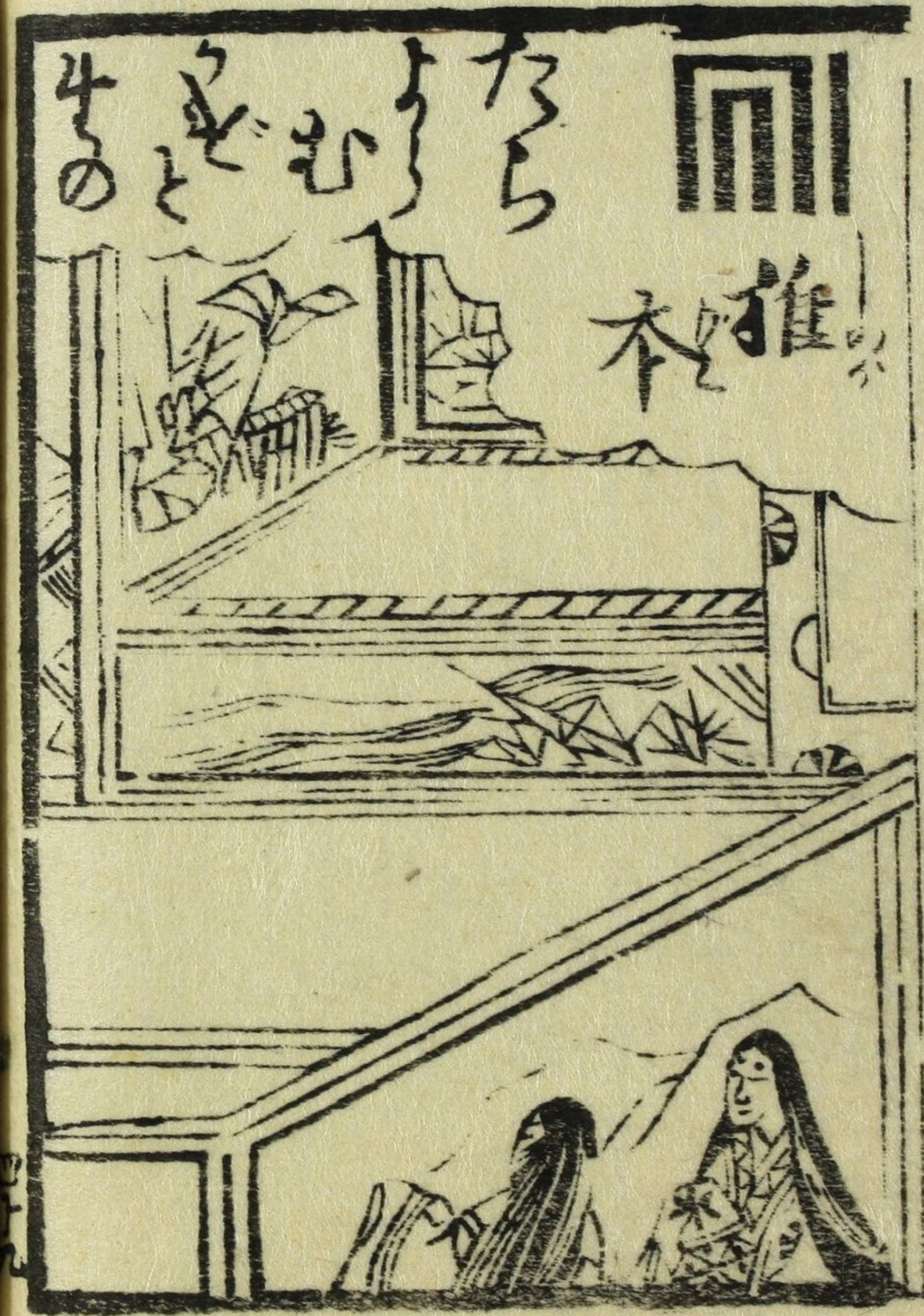


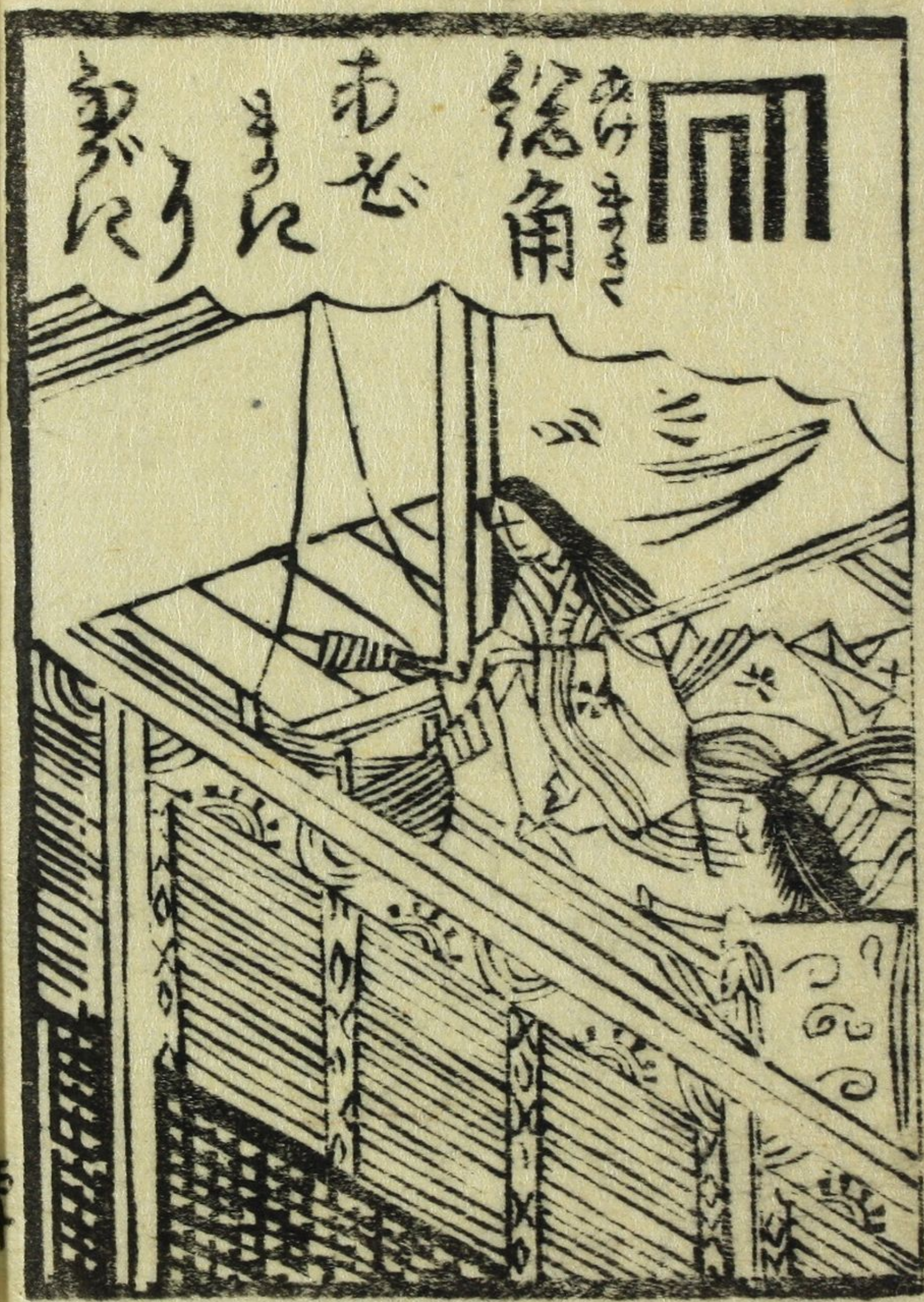


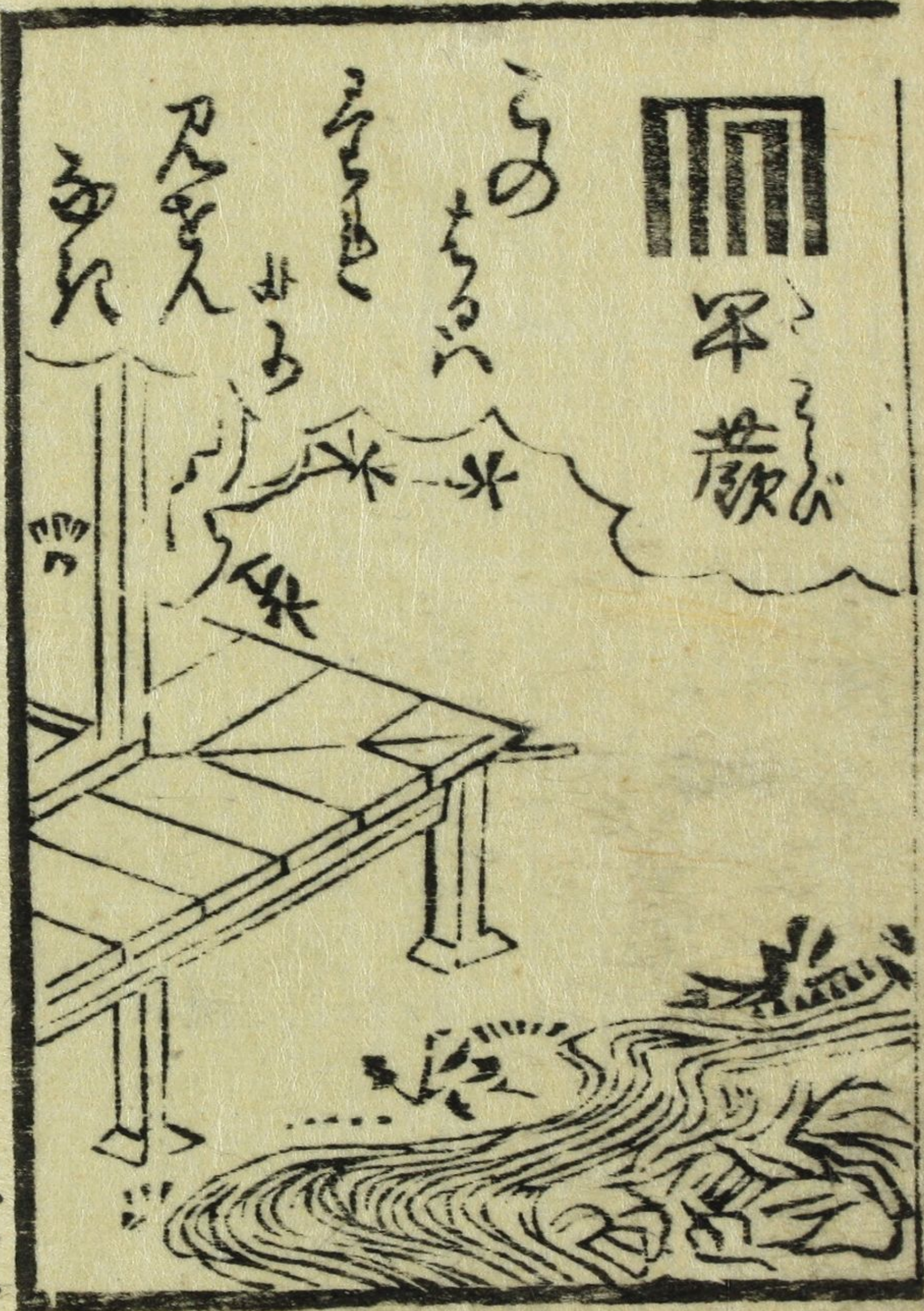






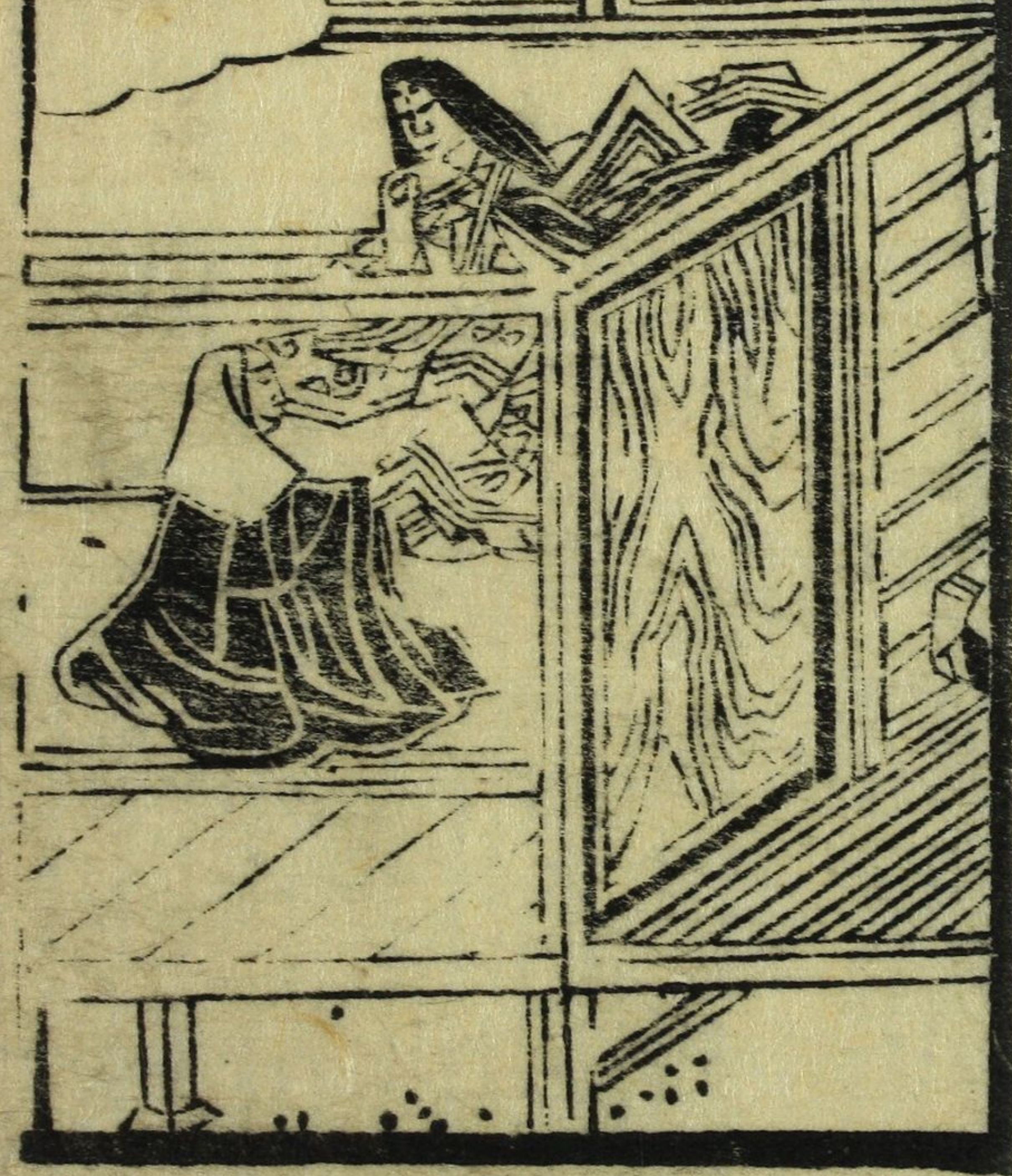








何となくあやふやな
もの



東屋

あまや
東屋

あまや

あまや

あまや

あまや

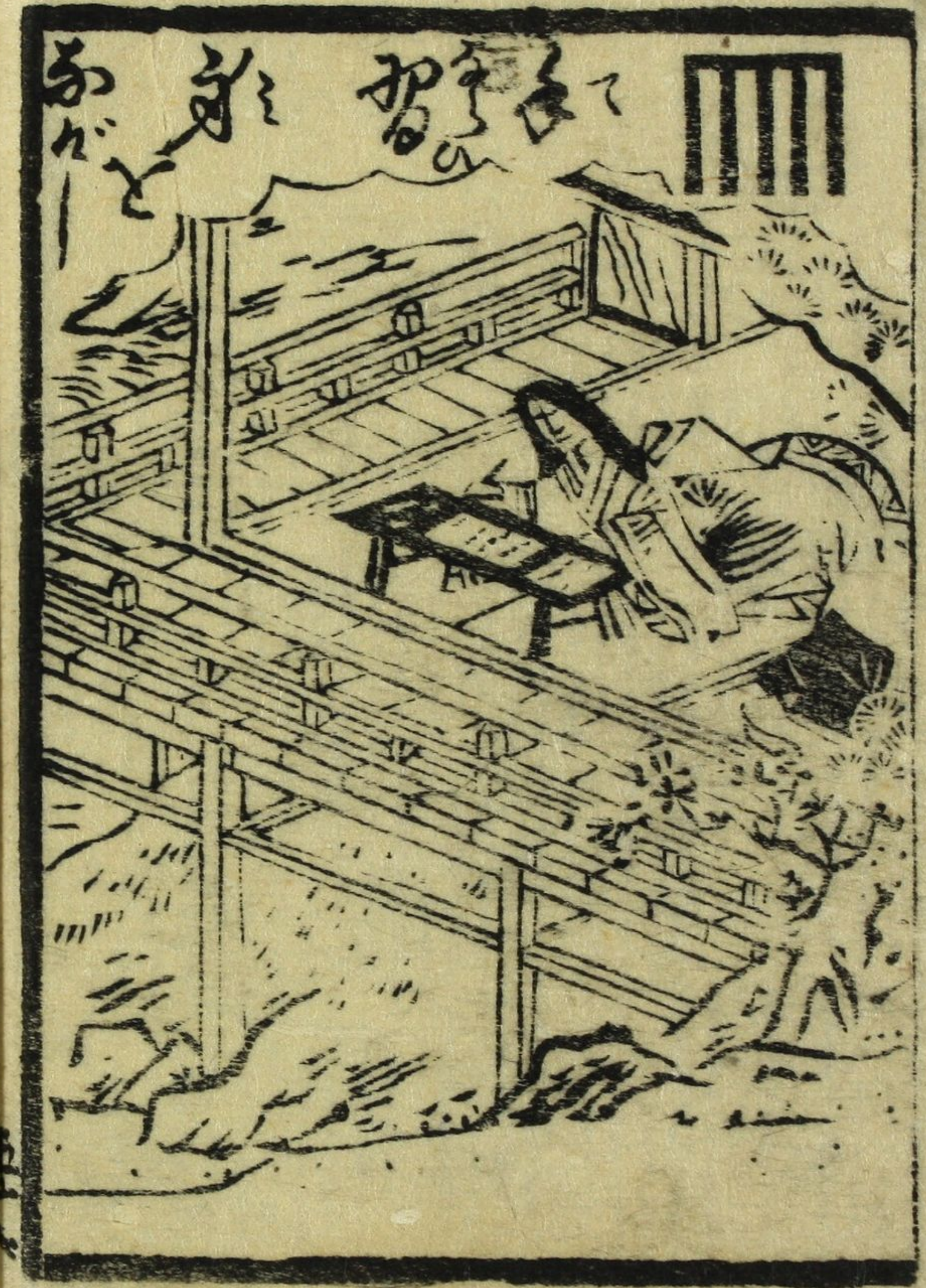
あまや

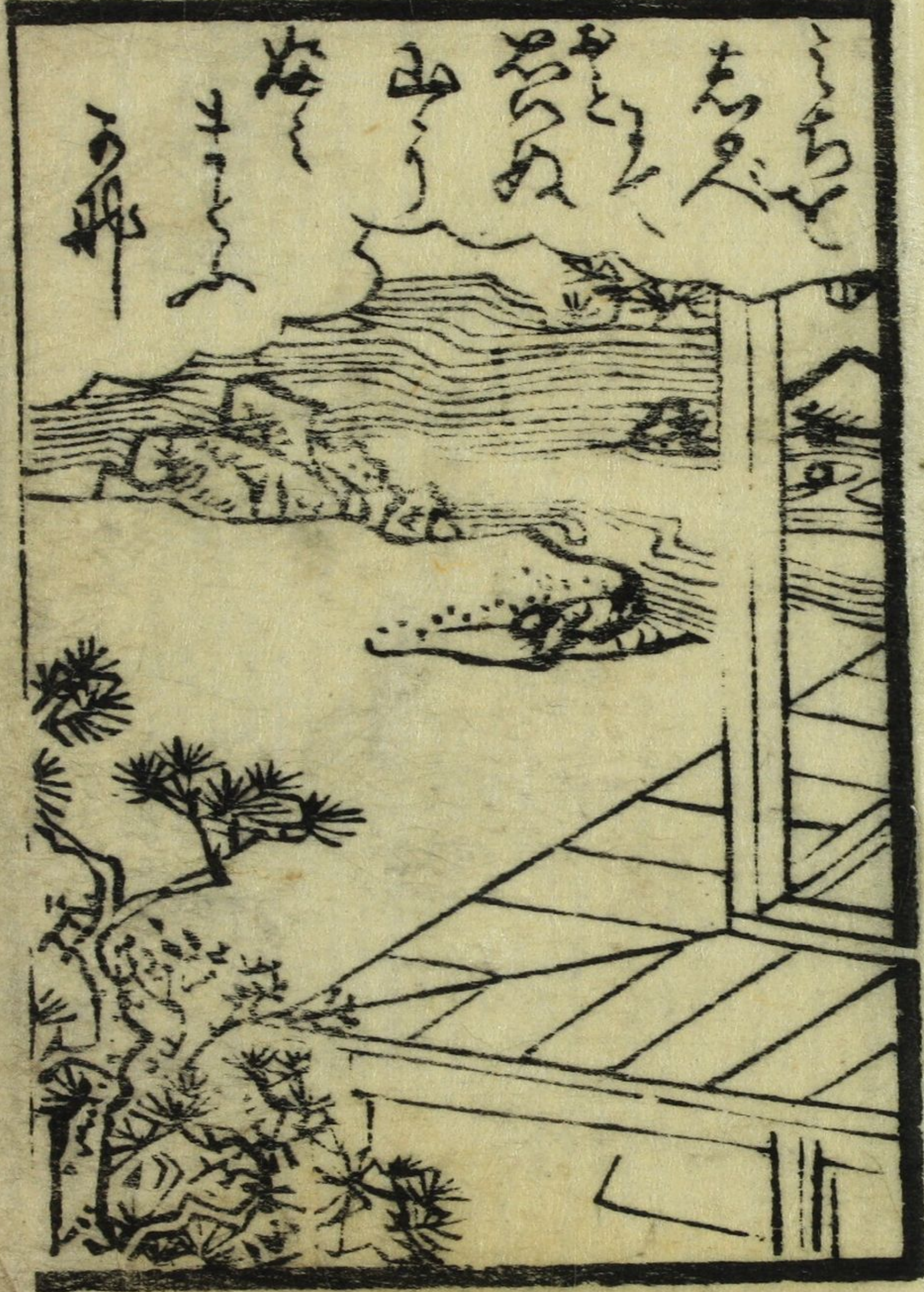


あまや









嘉永三庚戌年求板

書林

